

2019・6

現代短歌 NILE

花の登校

小田部誠

思いかなえよ

秋山義仁

*

水仙の花●坂田壽生

三十年度末●加藤恵子

風●水津育子

百花繚乱●吉永八重子

*

新世紀一首抄・185／松本豊子

ナイルキャンパス・246／小村井敏子

4月号作品批評／松本芙貴子、小田部瑠美子

三千年の夢物語・24／甲村秀雄

〈短歌版〉私の本棚・18／櫻井真理子

歌の狭間に落ちた男・61／柚汎

今月の歌集／氷室敬子

NILE CAMPUS

246

思いがけないこと

小村井敏子

思いがけないことに出会うのが人生かもしれない。昨年、夫六代目神田伯龍の十三回忌だつた。三十六年六か月を添い遂げた妻を亡くした夫が私をゲットしたのも思いがけなかつた。それまで、芸人と客という間柄で、そんな関係になるような気配をまったく感じていなかつたからだ。介護の時は一生懸命食べているつもりでも痩せるもの。介護ダイエットで十五キロ痩せた。今もそのままだ。十五キロ痩せて？十キロだから、だれも同情してはくれない。夫が亡くなつて困つたのは、誰かのためにすることの大部がなくなつたことだつた。高齢の夫の運転手を務めるために退職し、趣味のあれこれも、短歌以外はやめていた。介護ダイエットからのリハビリは仕事だつた。

就職難を経験した世代には申し訳ないが就職活動らしいことはしたことがない。そういうことが不得手な私としてはありがたいことに、最初の就職は、教授の紹介であつた。その後も採用試験を受けたり、委員会に登録をしただけだ。そのころあつた九月採用で公立中学校の教員となつた。介護の時が終わつてしまらく経つて、思いがけなく高校の非常勤に何日か来られないかと声を掛けられた。その時は、体力回復はいまひとつだった。駅から勤務校まで歩くと体力が落ちていて驚いた。週何日かの勤務は確かにリハビリになつたと思う。やることがあるのは元気のもとだ。高校の非常勤を二校、六年ほどして、しばらく家にいた。思いがけなく声がかかつたのは古巣の中学校からだつた。教員免許が更新制になり、失効しない免許の私に声がかかつたのだ。元気で明るい生徒に助けられて、今までやつたことのないカードゲームを取り入れた授業ができた。文法を学習するための手作りカードだ。産休・育児休業の代替として二年弱勤めた。六十五歳以上の高齢者なので非常勤講師だつた。そして平成三十一年、七十歳になつた。仕事が終わつたと思ったら、ナイルキャンパスを書くことになつた。思いがけなく、講談師の客から女房になつたのだ。講談にまつわることを中心に行こうと思う。

小村井敏子 ハルニレ・鎌

さすがですノロツコ号行く北海道雪踏みしめて撮り鉄がいる
春榆の大木見んと美幌まで雪の中行くそして阿寒へ

阿寒湖の雪ふうわりと散る露天ゆつたり風呂に時を過ごせり
暖かい北海道の冬である外の寒さを防ぐ暖房

裸足でもちつとも寒くありません北海道の冬の暖房

たつぶりと夕食のち部屋で飲む職場旅行の定番にして
準備よく日本酒ワインつまみまで年度終わりの職場の旅行

彼方まで氷りし海と氷らない海のあわいの野付半島
国後を望む半島はそくつて湾の浅さに氷りつくとや
湾氷り外洋氷らぬ半島に国後望むわれらであつた

三度目となれば車を降りません窓開けて撮るキタキツネです

花の登校

小田部誠・埼

魁の梅のかわりに誘はれ丁子に白蘭はるの香めづる
数丈の青桐いまだ葉を持たずはる日に光る青きにひ枝
楽しみは隊列くんで登校の花の中行く子らを見る朝
当番の母親たちと子の笑まひ家庭と地域の鎌となる
鼈負てふ怪力を持つ亀の名は靈異記に見る役除け説話
いにしへの中国神話の鼈負とふ九人なしたる龍の長男
早晚に井せうがち飲み田を耕し日入りて息ふ民やすらけし
いづくんぞ逐鹿ちくろくの智者少なかり民学ばざれば国おどろへる
珊瑚礁だけではすます月にまで基地化をはかる悪智恵つきぬ
返へせないわかつたうへで金注ぎ国をのつとるわろき國あり